

令和6年度 大宮学園

# 保幼小中一貫教育だより



あいさつでつながろう 大宮学園

令和7年3月10日発行

大宮学園事務局

## 「いろいろな支援をお世話になっています！」

大宮学園の園及び小・中学校は、今年度も多くの学校支援ボランティアの方々に指導や支援をお世話になっています。ボランティアの方々に支援に入っていた総日数は151日、延べ人数で219名となっています。（令和7年1月31日現在）大宮町在住の方はもとより他町在住の方にも学校支援ボランティアをお世話になりました。

その様子を紹介します。



茶道（お茶）体験



ミシン学習支援（第一小）



ミシン学習支援（南小）



音楽（箏）支援（第一小）



音楽（箏）支援（南小）



庭木の剪定



七夕祭の箏演奏



放課後学習支援



玄関の生け花

多くのボランティアの方々の支援で、貴重な学習や活動、体験をさせてもらっています。他にも総合的な学習の時間『丹後学』でも地域の方から多くの学びをいただきました。子どもたちの学びにとって地域の方々のお力は欠かせません。今後ともよろしくお願いします。



絵本の読み聞かせ



算数そろばん支援

## 「第2回大宮学園学校運営協議会」

2月18日（火）、第2回大宮学園学校運営協議会が行われました。全体会では、今年度の大宮学園並びに学校運営協議会の取組、成果を報告し評価をいただきました。



全体会の後、3グループに分かれて協議しました。グループ協議の柱は、下の2点です。

○「見守りとあいさつ」の取組等で学園の子どもたちを見て感じることに

○「大宮学園10年目の節目を終え、今後、どう

子どもたちが育つ環境づくりを進めたらよいか」、この柱に沿って熟議していただきました。

### グループ協議から

○登校より下校の方が危ないと言われるが、下校の見守りの方が難しい。地域がばらばらになりやすいので、地区での

見守りが必要かもしれない。立っていてもらわずとも、下校の時間帯に家から歩いている様子を見てもらえるだけでも安心。今の時代は同じ地区でもどこの子かわからないことが多いことも課題。

○あいさつができる子は、危険を感じた時言葉が出る。大人からの声かけに返すことができる。

○登校班等、班をつくる良さがある。年齢が違うことで、歳の大きい子から小さい子への関わりができる。

○変化に対応できる子を育てる。自分の身を守ることができるのではないかな。危険を察知する力を身につけさせる。グループや集団で過ごすことで、そういう力がついていけばいいのではないかな。

○関わりがないと、あいさつや会話が地域でできているかどうか。意図的に大人がしていかないとできるようにならない。日頃の関わりを意図的に大人が作る事が重要。

○中学生は、なかなかあいさつを返してくれない。はずかしいという気持ちからだと思う。相手がどうであれ、あいさつをし続けることであいさつを返してくれるようになるのではないかな。

○「小中の時の思い出があるから丹後に帰ってきた」という声を聞いた。元気よく遊ぶ姿が子どもたちのつながり作りにつながれば良い。

○地域のコミュニティに子どもたちを入れて、一体となって環境づくりが進めていけると良い。子どもたちを地域の中で育てる意識が大切。

○大雪の時歩道の雪すかしがなくて、登校する子どもたちが歩きにくそうにしている、「歩きやすい所（車道のはし）を歩いていいよ」と突然の指示でもきいてくれた。毎日、歩道の所に立たせてもらってあいさつしているからこそと思った。



## おめでとうございます！～京都府 PTA 協議会 三行詩優秀作品～



○京都府教育委員会教育長賞

京丹後市立大宮中学校3年

井澤 あかり さん

「やりたいことやりなさい。」 支えてくれる 家族のことは

(令和7年8月のカレンダーに掲載)

○京都新聞賞

京丹後市立大宮中学校3年

太田 優衣 さん

全員に好かれようとしなくていい あなたはあなたわたしはわたし 自分の個性を大切に

(令和7年11月のカレンダーに掲載)

○団体賞 優秀取組 PTA

京丹後市立大宮中学校 PTA

